

## 総合的な探究の時間

2月9日(月)5、6校時、本校体育館で総合的な探究の時間の最終報告会が行われました。中央小の5年生60人と関係者14人が来校されました。



2年：佐々木 健輔さん(中西別中出身)

私たちの班は、人間の五感に制限を加えたら味の感じ方は変わるのかという問いを立て、好き嫌いによる食品ロスの削減を目標とし、これまで活動してきました。探究する中で校内の人はもちろん、給食センターの方や中学生にも協力していただきました。たくさんのご意見をいただくことができ今回の最終報告会で私たちに然りに出した結論を伝えることができました。今までの活動はとても貴重で深い学びを得ることができました。この経験を活かしてこれからも様々なことを探究していきたいです。

2年：澤田 尚輝さん(別海中央中出身)

僕たちの班は「音楽」をテーマに活動し、「運動において音楽が与える影響とは?」という問いを立てました。仮説を立て、立証するための実験やアンケートを行いました。その結果、仮説とは異なる結果となり探究したことによって、当初のイメージを覆すことができました。「最終報告会」に向けて、私たちは聞き手に分かりやすく伝えることを目標に準備を進めてきました。資料作りや原稿の推敲、発表練習に特に時間をかけ、本番では落ち着いて発表することができました。課題も見つかりましたが、1年の探究の成果をしっかりと伝えられた発表会になったと思います。

1年：近内 魁斗さん(別海中央中出身)

1年生は6時間目から見学だったため、すべての発表は聞いていないのですが、聞いた2年生の班はかなり手の込んだデータが多くて面白いと感じました。設定するテーマの自由度が高くそれぞれ个性的で目に焼き付くようなものが多かったです。特に教科に関わるような内容のところ面白かったです。来年の自分たちも今の2年生と同じくらいのものが出来たらと思います。

バレンタインチョコは  
今号の中にいくつかある  
でしょうか?  
答えは次号!!



## 後期期末考査終了

2年：福嶋 琉都さん(野付中出身)

僕は後期期末考査に向け、特に数学Ⅱと生物基礎に力を入れました。理由は前のテストで生物基礎と数学Ⅱの点数が低かったからです。自宅ではワークや先生からもらったプリントを活用したり、わからないところは友達と教えあったり聞いたりして毎日コツコツとテストに向けて勉強を進めていきました。反省点として、来年からは今年よりも普段の勉強時間から1時間増やすなど、より計画的に試験勉強を開始し、自分の将来のために頑張っていきたいです。

2年：永長 花さん(別海中央中出身)

今回は全教科で9割とることを目標にしました。目標を達成するためにはまず、前回の結果やこれまでの授業から自分の得意不得意を見極め、どの教科にどのくらい時間をかけるのか配分を考えて計画を立てました。その甲斐あって、テスト中に「?」が浮かぶ場面を減らすことができたと思います。逆に、テスト中の時間配分や解くスピードという課題が浮き彫りになりました。これからもこの目標設定と課題発見の流れを大切にしていきたいと思っています。



# Nサミット「北方領土啓発運動」「戦後80年を契機とした新たな活動への挑戦」

2月7日（土）FMねむろ、FMはな、「北方領土の日」啓発ラジオ番組に、本校3年生、和田梨恋さん（別海中央中出身）、森田梓花さん（中春別中出身）が出演しました。二人は3年間北方領土プロジェクト「Nサミット」に参加してきました。本校では、北方領土啓発運動を行っており、今年度は小中学校への出前講座などを行いました。

3年：森田 梓花さん（中春別中出身）

今回のNサミットのラジオ収録に参加させていただき、とても貴重な経験となりました。緊張感がありつつも温かい雰囲気でお話することができました。話を丁寧に引き出してくださったおかげで、自分の考えや想いをしっかりと伝えられたと思います。ラジオ収録では表情や身振りに頼らず、声のトーンや間の取り方で想いを伝えることの大切さを学ぶことができました。放送を通して、少しでも多くの方に想いが届けば嬉しいです。3年間、北方領土啓発運動に参加し、歴史や元島民の方々の想いを学びました。領土問題は遠い話ではなく、私たち一人ひとりが関心を持ち続けることが大切だと実感しました。

3年：和田 梨恋さん（別海中央中出身）

初ラジオ収録だったので緊張しました。テレビ撮影とは違って声での情報しかないなので、伝わりやすく情報をまとめたり、明るい声で伝えることを意識していました。自分たちの活動によって北方領土問題について関心をもつきっかけになれば良いと思います。3年間Nサミットに関わることができて、とても貴重な経験が出来たと感じています。より多くの人に北方領土について知ってもらう活動というのは難しいことではありましたが、若い世代の自分たちだからこそ出来る活動は何かと考えながら活動できたと思います。



## 校長連載シリーズ⑨



### 【土の再生、わたしたちの再生】

中央中学校の2年生の皆さんは学校の畑で収穫したあの大きなカボチャやキャベツを覚えていますか？化学肥料も農薬も使わずに、土の力だけであんなに立派に育ったのです。今、世界では「リジェネラティブ（環境再生型）農業」が注目されています。これは、土を単に「守る」だけでなく、本来の力を引き出して「より良く再生させる」という考え方です。これまでの農業は、肥料や薬をたくさん投入して、効率よく生産することを目指してきました。そのおかげで多くの方が救われましたが、頼りすぎた結果、土は疲れ果て、自然のバランスが崩れてしまいました。これは、私たちの生き方にも似ているかもしれません。「外側から何かを与えられる」のを待つばかりでは、いつか限界がきます。でも、土が本来の生命力を取り戻せば、地球温暖化を防ぐほど大きな力を発揮します。人間も同じです。既存の価値観に縛られて自分をすり減らすのではなく、新しい知識を取り入れ、内側から自分をアップデートしていく。それこそが、これからの時代を生きる「自分自身の再生」につながります。土が新しく生まれ変わるように、私たちも学びを通して、より豊かな自分へと再生していきましょう。